

2024年の新春を迎えるに当たり、所感の一端を申し述べ、新年のご挨拶とさせていただきます。

昨年を振り返りますと、4月末に本邦入国制限解除により国際的な人の往来が大きく再開され、日本に於ける国際的展示会等のイベントも、オンラインと対面との双方で開催される事により、デジタル化によるニューノーマルにより、社会的距離も取れる様な選択肢が可能となりました。一方、コロナ脱却が早かった欧州では、一昨年から大型イベントは対面で開催されております。

また、本邦では半導体不足緩和により経済正常化が進み、設備投資も増加基調となりましたが、昨年の欧州は、インフレ圧力による利上げ継続等により設備投資や個人消費は抑えられました。

ウクライナ戦況は長期化、昨秋からイスラエル情勢が加わり、世界情勢は予断を許さないなか、経済、特に燃料や食料高騰、労働力不足に加え、為替は円安継続も懸念材料となっております。

この様な情勢の基、現在はA I やデジタルによる社会システムの歴史的転換点と考えられます。本年度の業界見通しとして、

A I やデジタル化により、社会システムに於ける技術のパラダイムシフト加速が進むと同時に、対極として、ノスタルジーではない現場や現物への真の回帰といった二極化が見られてきます。例として、生成A I による手軽な画像作成は、コンテンツ作成に大きな利便性が挙げられます。その一方、

現場で撮影した一枚の現物である写真が世界に訴える力は、社会変革する力を潜在するのです。予断を許さない世界情勢の基、一枚の写真は、無言の訴えとして力を発揮するやも知れません。技術史を紐解いてみますと、

動いている被写体に対して防振の上、常時ピントを全自動で合わせる事が出来る技術が生まれ、銀塩フィルムを現像しなくとも、センサで光を感知するデジタル技術で画像を見れる様になり、今や、撮影する前から既に画面で、画像の事前確認により、シャッターチャンスを見逃しません。銀塩フィルムでは現像後に見つかる失敗例を考えると、非常に良いエネルギー効率と言えます。

二極化と申し上げました。

スマートモビリティ等、公共社会システムも、A I を利用したデジタル化が加速しております。自動運転技術は、より安全に、エネルギー効率良く、大気汚染や交通渋滞を解決するでしょう。地球観測システムは、洪水や森林火災に対する早期発見や防災に、大いに役立つと思われます。一方で人の絆も、予断を許さない世界情勢だからこそ、より一層求められると思われるのです。人々の心を突き動かす感動を与えるもの、社会の価値観に影響を与えるものとして、より一層、現像された一枚の写真が訴える力の様に、現物が大切なものとなっていこうと思われれます。欧州は、経済安全保障から製造業回帰を見据える故、新規工場の設立やF A 化が進むでしょう。この様なスマート工場やラボでの製造活動も、現場、現実、現物主義と捉えることが出来ます。

デジタル化パラダイムシフトと同時に起こる二極化を好機と捉えること述べさせていただきました。結びとしまして、本年が皆様にとって大きな飛躍の年となることを、心より祈念申し上げます。

令和六年 元旦

タムロン・フランス

山下和則